書　道

「　炎　」

西内　可々（香南市）

人とのつながりから

「強い思いを視覚的に分かるように行書で書き上げました」

審査員は「存在感がピカイチの作品だった」と評した。

制作の場としているアトリエの代表が秋葉祭りに関わっている人で、その人から来年の祭りは新型コロナウイルスの影響で縮小すると聞いた。その時、高ら始め、岡崎桜雲氏、知の大事なお祭りを応援したいと思ったという。

「この神社が火にまつわる神様を奉っていることから、その思いを募らせ、膨らませているうちに今回の作品になりました」

書道は小学校の頃から始め、岡崎桜雲氏、川内悠渓氏から手ほどき、指導を受けて現在は和泉蒼牛氏の下で技量を磨いている。

県展というと手島右卿氏が審査員を務めた時に言った「今の書家は単に馴致（じゅんち）によって作品を作っているだけだ。もっと感情を盛り込んで人の心に食い込んでくるものを書くべきだ」の言葉が心に残っているという。

「人の心に響く作品は人と人とのつながりから生まれてくるように思います。感性を磨いて少しでもいい作品を作っていきたいです」

（池添　正）

にしうち・かか　本名・寿子。1955年香南市生まれ。独立書人団審査会員。初特選。